

令和2年1月13日(月)

#### センターに向かって進め その4

数学の二次対策については、中高一貫校が全国的に進出していることから、問題が難化傾向にあるので、決して見くびらず、様々な対策を取っていくべきであるという昨日の記述は、昨年度の受験において顕著であった。

東北地区の進学校から、東北大学理系への進学が非常に難しい結果となった。また、東北地区の各県の東大への現役合格がとても減少した。その心は、数学である。

東大において、文系は、2次試験440点満点で数学80点の配点(1問20点の4問出題)、理系では、440点満点で数学120点の配点(1問20点の6問出題)である。この数学において、50%の得点があれば、合格であるという位置づけがなされている。仮に、文系では、1問20点しか取れないと、120点配点の英語と国語で、それぞれ75点以上の点数と、2教科選択する地歴公民(1教科60点)で、やはり80点を取らないと、合格圏内には入ってこない。これは大変な状況となる。(センター試験800点取って、センター試験の2次試験換算点を97.8点としたとき、合計が347.77となり、ようやく文Ⅲで合格圏、文Ⅰでは、最低点が351.8 文Ⅱは最低点358.1なので、10点の上積みが必要となる。かつては、最低点が325点ぐらいであった時と比べて、35点上昇している。)

ましてや理系において、1問20点しか取れないと、120点配点の英語で80点、80点配点の国語で60点以上の点数と、2教科選択する理科(1教科60点)で、80点を取ったとしても、合格圏内には入ってこない。これはもっと大変な状況でなる。

合格最低点もここ数年上昇しており、東大合格には、数学が要である。

青森高校、八戸高校、弘前高校3校の合計で、東大に1人しか現役で受からなかったということであり、福島高校でも現役生は、推薦で1人だったということ、この数学の影響をまともに受けていることは間違いない。

逆に、東北大工学部に12人の現役を前期試験で送り込んだ福島高校の内実は、東北大出身の数学教員が一手に指導を引き受け、ほとんど合格することができたという情報もあり、ここが核心をついていることは間違いない。

教科における大学実績のある教員は本校にもたくさんいる。つまりは、志望している生徒と教員とのマッチングの重要性に気づくことである。

校長は、面接指導ができるし、小論文指導もできるので、ぜひ、仕上げのために校長室を訪れてほしい。

